

110th R

立命館創始140年・学園創立110周年記念



「韓国併合」100年特別展

巨大な監獄、植民地朝鮮に生きる

Colonial Rule and War Responsibility in East Asia, 1910-1945

【期間】2011. 3. 1 [火] ~ 20 [日]

主催：立命館大学コリア研究センター
立命館大学国際平和ミュージアム
民族問題研究所

【会場】立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホール

休館日 月曜日 開館時間 9:30~16:30 (入館は16:00まで)

「韓国併合」100年特別展記念 特別講座

朝鮮植民地支配をどう見るのか

【日時】2011年3月1日 [火] 12:00 ~ 16:00 【会場】立命館大学創思館カンファレンスルーム

参加費無料
同時通訳あり

プログラム

開会式

1 朝鮮民衆から見た朝鮮植民地支配
2 民族解放運動の歴史と意義

許英蘭
朴漢龍

2 日本の韓国併合の実態
4 日韓条約と植民地支配問題

康成銀
太田修

主催：立命館大学コリア研究センター、民族問題研究所

※終了後、ガイドの展示案内あり

■ ギャラリートーク 14時開始 (3月5日、3月12日)

【日時】第1回：3月5日 [土] 「植民地朝鮮の治安体制」 水野直樹【京都大学人文科学研究所 所長】

第2回：3月12日 [土] 「東アジア平和と人権宣言」 徐勝【立命館大学法学部 教授】

【会場】立命館大学国際平和ミュージアムロビー



【お問い合わせ先】立命館大学コリア研究センター TEL:075-466-3264 ※平日9:30~16:30まで

【会場お問い合わせ】立命館大学国際平和ミュージアム TEL:075-465-8151 FAX:075-465-7899

「韓国併合」100年特別展「巨大な監獄、植民地朝鮮に生きる」

20世紀は、帝国主義国家の植民地支配と侵略戦争の時代でした。日本が朝鮮半島を併合した1910年から100年目の節目に当たる2010年においても、植民地支配の歴史清算問題は、東アジアの平和構築においても最も重要な課題として残されています。

植民地支配により朝鮮半島は朝鮮民衆にとって「巨大な監獄」となりました。本展示では、朝鮮での植民地支配の構造や当時の民衆の生活の実態を伝える資料を紹介し、朝鮮の開港から併合、植民地支配と戦争動員といった、日本による朝鮮植民地化と支配の歴史をわかりやすく紹介すると同時に、日記や公文書、チラシ、写真、遺物など、韓国の民族問題研究所が時間をかけて収集した貴重な資料を多数展示しています。

立命館大学は、「韓国併合」100年の年に、立命館創始140周年、学園創立110周年を迎えました。このような節目の年に、本展示が、過去の100年間の日本がアジアにおいて犯した侵略と植民地支配の歴史を正面から見据えて、この歴史の教訓を次世代に伝え、現在まで続く植民地問題をともに考える機会となれば幸いです。



朝鮮軍事後援連盟贈呈の「武運長久」チョッキ



創氏改名が記録されている戸籍



全羅南道靈岩地域の土地台帳（1911年）



咸鏡道の三一運動で配布された「独立宣言書」（1919年、45.4×20.3）



【会場マップ】

立命館大学 国際平和ミュージアム
立命館大学 創思館カンファレンスルーム

- JR・近鉄 京都駅より：◎市バス 50・快速 205「立命館大学前」下車約 35分
◎市バス 205「衣笠校前」下車約 35分、さらに西へ徒歩 10分
◎JRバス立命館大学經由周山行き「立命館大学前」下車約 30分
- JR（嵯峨野線）円町駅より：◎市バス快速 202・快速 205「立命館大学前」下車約 10分
◎市バス 205「衣笠校前」下車約 10分、さらに西へ徒歩 10分
◎JRバス立命館大学經由周山行き「立命館大学前」下車約 10分
- 阪急電鉄 西院駅より：◎市バス快速 202・快速 205「立命館大学前」下車約 20分
◎市バス 205「衣笠校前」下車約 20分、さらに西へ徒歩 10分
- 阪急電鉄 河原町駅（四条河原町）より：◎市バス 12・51「衣笠校前」下車約 40分
- 京阪電鉄 三条駅より：◎市バス 15・59「立命館大学前」下車約 30分
- 京福電鉄（北野線）等持院駅より：◎北東へ徒歩約 10分